

令和5年度 学校研究

研究主題

自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくり（2年次）
～確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの構築Ⅱ～

1 研究主題設定の理由

本校では、社会的自立を目指す研究に長年取り組んできた。生徒たちは働く力を高め、「自立を目指して『明るく』『すなおに』『たくましく』」の校訓のもと学校生活に取り組んでいる。

本研究は、昨年度から3か年計画で取り組むこととした主題「自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくり～確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの構築～」の2年目である。前研究の取り組みでは、「社会に出てから自立した生活を送るには、状況を理解し、自分で考え臨機応変に対応することが求められ、主体的に行動する生徒の育成に継続して取り組んでいく必要がある」とまとめた。このことから本主題を設定した。

本研究の1年目は、主題に迫るために、学習指導要領の内容を在学中の3年間に学習するために、教科ごとに年間指導計画を整えることと、見方・考え方を働かせる「問い」のある授業の実践に取り組んだ。今年度は、さらに発展させ、「深い学び」をキーワードとして、教科ごとに整えた年間指導計画のつながりを整理（カリキュラム・マネジメント）する。教科等横断的な学習の充実を図ることと、各授業において、生徒の主体性を引き出し、見方・考え方を働かせる「発問」や「学習課題」の工夫に取り組むことを考えた。

2 研究のねらい

生徒が、自ら気づき、考えて行動するようになるために、「深い学び」のある授業づくりに取り組む。

3 研究の内容

（1）「各教科の年間指導計画のつながり」を整理（視点1）

・昨年度学習指導要領に沿って整理した各教科の年間指導計画に基づいた教育活動を実施し、教科間のつながりを整理する。

・教科等横断的な学習の充実のあり方を整理した鶴高養版カリキュラム・マネジメント（試案）を作成する。

（2）各授業における「発問」や「学習課題」の工夫（視点2）

生徒一人一人の主体性を引き出し、見方・考え方を働かせる「発問」や「学習課題」のあり方について検証する。

4 研究の方法

（1）「各教科の年間指導計画のつながり」の整理について（視点1）

- ① 令和5年度の行事、生単、総合、LHR、各教科の年間指導計画を学年ごとに一覧にした表を作成し、年度始めに教師用廊下に貼る。
- ② 教科部会で教科間のつながりを考えた単元配置を検討し、研究推進委員会に持ち寄り再検討するなどカリキュラム・マネジメントを行う。
- ③ 研究紀要「いしずえ」で、鶴高養版カリキュラム・マネジメント（試案）を提案する。

(2)「発問」や「学習課題」の工夫について（視点2）

- ① 研究だよりで各教科の「発問」や「学習課題」について紹介する。
- ② 研究協議（校内研、公開研）で学年ごとに、より良い「発問」や「学習課題」について協議する。
- ③ 研究紀要「いしずえ」で、「発問」や「学習課題」について協議したことをまとめる。

5 研究計画

(1) 研究期間 令和4年度から令和6年度までの3ヵ年とする。

(2) 研究計画の概要

		【1年次：令和4年度】	【2年次：令和5年度】	【3年次：令和6年度】
研究の内容	(1)	・各教科の学習内容の可視化 ・学習指導要領に沿った年間指導計画の整理	・年間指導計画の実施と見直し ・「教科間のつながり」を整理し、鶴高養版カリキュラム・マネジメント（試案）を作成	・鶴高養版カリキュラム・マネジメント（第一版）の完成 ・生単、総合、LHRの単元の整理（未定）
	(2)	・一人一授業案作成と授業を見合う会の実施 ・見方・考え方を働かせる「問い」のある授業実践	・主体性を引き出し、見方・考え方を働かせる「発問」や「学習課題」の工夫	・生単、総合、LHRの授業における「発問」や「学習課題」の工夫（未定）
	(3)	教科毎の研究グループ	学年毎の研究グループ	学年毎の研究グループ
中心となる教科	校内研	校内研Ⅰ 全教科（見合う会）	7月13日（木） 数学科、音楽科、 保健体育科	生単、総合、LHR （未定）
	公開研	校内研Ⅱ 全教科（見合う会）	12月14日（木） 国語科、家庭科、美術科	生単、総合、LHR （未定）